

大地の恵み

blessing of the earth

「共に語ろう! ふるさと“あきた”の魅力」

—地球人フォーラム 2003—

農作業体験イベント「みんなで“いも”作り」

環境…◎環八郎湖シンポジウム ◎環鳥海シンポジウム

食料…わたしたちの食料と世界の食料事情!

平成15年度活動状況

vol.5
H16.3



あきた
食料・環境・ふるさとを考える地球人会議

大地の恵み



vol.5

H16.3
発行

発行編集 ● あきた食料・環境・ふるさとを考える地球人会議

〒010-0097 秋田県田子町田子1-1-1 秋田県民センター402号
TEL 018-886-2799 FAX 018-886-3334 URL <http://www.earthforum.com/> <http://www.earthforum.com/earthforum>

あなたの声が“原動力”! 一緒に活動に参加しませんか。

【食料】

我が国の食料自給率は40%。もし、輸入農産物がなかったら…。
食料自給率の向上は、私たち一人ひとりの課題です。

【環境】

「水」、「土」、「豊」は私たちが生きるために必要です。
今、安全・安心なものはどうですか?

【ふるさと】

緑豊かな田園。心の豊かさや安らぎ、そして人間らしさ…。
あなたは、子供たちに何を伝えますか。



「あきた 食料・環境・ふるさとを考える地球人会議」は、
安全な食料の確保のため、環境に優しい社会の創造のため、そして
緑豊かなふるさとを子供たちに引き継ぐため、みんなで考え、
発言し、行動する組織です。一人ひとりの力が活動の原動力です。
みなさんの参加をお待ちしております。

地球人会議の活動内容

- ①シンポジウムやセミナー等の開催と参加
- ②パンフレットや情報誌等の発行
- ③アンケート調査等による会員との意見交換
- ④インターネットを活用した会員との情報交換

（シンボルマークについて）

緑豊かな地球を守り、未来へ手渡したいという地球
人意識の強い希望を込めています。緑の地球をシンボ
リックに表し、芽生えた野菜は、食料—一人一人の健
康に対する楽しみ・思いやりの心を表現しています。

（お断り）

掲載の「大地の恵み」は、年1回会員の方々に配布しています。
住所変更があった場合、掲載誌の高率を希望しない方は、お手紙
で事務局までご連絡ください。



環境負荷低減100%を実現しています。

共に語りしーるわむ

あきたの魅力

ディスカッションから 魅力を探りたい!

秋田は自然の豊かさ、景観の美しさ、食文化の豊かさ、生活の質の高さ、伝統文化の継承、自然環境の保全、教育の充実、医療の充実、産業の発展、交通の利便性、観光の魅力を高めることなどが、秋田の魅力である。ディスカッションを通じて、秋田の魅力を探りたい!

山 下 秋田で影響を受けた人物



コーディネーター
前川 重明
秋田県物産公社
秋田県観光振興委員

パネラー
小林 隆司
東北銀行総務課
設計課長

パネラー
菅 善一郎
本水建設ネット山田
5ヶ村理事

パネラー
藤井 けい子
農業政策
研究員(山形県) 経営

パネラー
山下 裕作
獨立行政法人
農業工学研究所

「自然が持っている魅力」を、秋田県民が誇りに思い、愛する心をもち、発信することです。秋田県民が誇りに思い、愛する心をもち、発信することです。秋田県民が誇りに思い、愛する心をもち、発信することです。

農業が誇りであり、 宝である!

秋田県民が誇りに思い、愛する心をもち、発信することです。秋田県民が誇りに思い、愛する心をもち、発信することです。秋田県民が誇りに思い、愛する心をもち、発信することです。

秋田県民が誇りに思い、愛する心をもち、発信することです。秋田県民が誇りに思い、愛する心をもち、発信することです。秋田県民が誇りに思い、愛する心をもち、発信することです。

私のふるもちは

秋田県民が誇りに思い、愛する心をもち、発信することです。秋田県民が誇りに思い、愛する心をもち、発信することです。秋田県民が誇りに思い、愛する心をもち、発信することです。

付加価値を高めるには どうしたらよいか?

秋田県民が誇りに思い、愛する心をもち、発信することです。秋田県民が誇りに思い、愛する心をもち、発信することです。秋田県民が誇りに思い、愛する心をもち、発信することです。



秋田 田

農業・農村の旅 わくわく探訪

～土地改良施設巡り～

スタート



拓沢地区は場整備事業(農業町)



県北秋田地域振興局(農業町)

去る7月19日に、「農業・農村の旅 わくわく探訪」と題する土地改良施設巡りが行われました。このわくわく探訪は今年で7回目になり、県内各地の土地改良施設を見学し、農業や農村、様々な施設の果たす役割を子供たちや一般の方々に理解を深めてもらおうと、水士里ネット秋田(秋田県土地改良事業団体連合会)が実施しているものです。今回は、はじめて県北地域で開催され、大館市、農業町、合川町の児童と保護者85名が参加して各施設や事業を見学しました。その時に、参加者から聞いていただいた感想文の中から、代表して2人の小学生が地球人フォーラム2003のステージで発表しました。



下杉3村ため池(合川町)



小羽地区農業事業課父事業管理施設(大館市)



北秋の杜(合川町)



三浦橋頭首工(大館市)



「農業・農村の旅 わくわく探訪」に参加して、土地改良施設を見学し、農業や農村、様々な施設の果たす役割を子供たちや一般の方々に理解を深めてもらおうと、水士里ネット秋田(秋田県土地改良事業団体連合会)が実施しているものです。今回は、はじめて県北地域で開催され、大館市、農業町、合川町の児童と保護者85名が参加して各施設や事業を見学しました。その時に、参加者から聞いていただいた感想文の中から、代表して2人の小学生が地球人フォーラム2003のステージで発表しました。



拓沢地区は場整備事業(農業町)
県北秋田地域振興局(農業町)



大切な施設
合川小中学校の児童・保護者
拓沢地区は場整備事業(農業町)
県北秋田地域振興局(農業町)

大切な施設
合川小中学校の児童・保護者
拓沢地区は場整備事業(農業町)
県北秋田地域振興局(農業町)

大切な施設
合川小中学校の児童・保護者
拓沢地区は場整備事業(農業町)
県北秋田地域振興局(農業町)



農作業体験イベント

「みんなでいも作り」



地球人会議では、平成15年度事業計画に基づき農作業体験イベント「みんなでいも作り」を企画・実施しました。これは、一般市民の自然に触れながらの作業を実践し体験してもらい、農業者に対する理解と関心を深めてもらうこと、前回同様行なってもらう「いも作り」を開催しました。秋田市内から、ほとんどの農作業を経験したことのない25名の市民や親子が参加し、農作業体験。今回は、仙北郡協和町小幡地区農協主催の「加藤まゆみさん」が体験の指導となりました。



「5月25日、秋田の農作業体験イベント「みんなでいも作り」を開催しました。秋田市内から、ほとんどの農作業を経験したことのない25名の市民や親子が参加し、農作業体験。今回は、仙北郡協和町小幡地区農協主催の「加藤まゆみさん」が体験の指導となりました。



いも掘り体験

10月12日(土)：秋の中心・大収穫(大盛況)

「いも掘り体験」は、秋の中心・大収穫(大盛況)の一環として開催されました。当日は、秋田市内から、ほとんどの農作業を経験したことのない25名の市民や親子が参加し、農作業体験。今回は、仙北郡協和町小幡地区農協主催の「加藤まゆみさん」が体験の指導となりました。



「いも掘り体験」は、秋の中心・大収穫(大盛況)の一環として開催されました。当日は、秋田市内から、ほとんどの農作業を経験したことのない25名の市民や親子が参加し、農作業体験。今回は、仙北郡協和町小幡地区農協主催の「加藤まゆみさん」が体験の指導となりました。



「いも掘り体験」は、秋の中心・大収穫(大盛況)の一環として開催されました。当日は、秋田市内から、ほとんどの農作業を経験したことのない25名の市民や親子が参加し、農作業体験。今回は、仙北郡協和町小幡地区農協主催の「加藤まゆみさん」が体験の指導となりました。



「いも掘り体験」は、秋の中心・大収穫(大盛況)の一環として開催されました。当日は、秋田市内から、ほとんどの農作業を経験したことのない25名の市民や親子が参加し、農作業体験。今回は、仙北郡協和町小幡地区農協主催の「加藤まゆみさん」が体験の指導となりました。



「いも掘り体験」は、秋の中心・大収穫(大盛況)の一環として開催されました。当日は、秋田市内から、ほとんどの農作業を経験したことのない25名の市民や親子が参加し、農作業体験。今回は、仙北郡協和町小幡地区農協主催の「加藤まゆみさん」が体験の指導となりました。

大収穫を願って

農作業に挑戦!

環境

地域の持続可能性を探る！

環八郎湖流域の未来シンポジウム

『新たな水郷の創出に向けて』 循環する水系の視点



内山 鉄士

平成16年1月14日、昭和町の茨城中学校体育館で開かれた環境シンポジウム「循環する水系の視点」は、流環1帯の心と水のかかわりについて講演やパネルディスカッション、質疑応答が行われ、環境再生の中心となる40名が参加。300名超の来場者は会場を満杯となり、参加者はメモを取るなど熱心な様子が見受けられました。

が10万立方メートルの水を、循環する水系という視点に着目。新たな水郷創出を語り合いたい」とを掲げ、環境再生と経済発展を妨げるのは、環境と経済の両方を追求する研究者の集まりである。本学環境学部の山村主任は、責任を持って学部の内山部長、NPO法人環八郎湖プラットフォーム代表理事の森田、関係の清水浄化センターに呼びかけ、シンポジウムを開催。

また、パネリスカッションでは、南秋田郡内土地開発局理事長、生活環境グループ環境推進部長、環境推進センターの代表、本荘田利建設の森田を代表とする、フクロ組の事務局長代表も参加。八郎湖の水を循環させる、水を使う方法を防衛する、海水導入、流環1帯の水質浄化センターの開催が、今回のシンポジウムは、八郎湖の水再生に向け意見が交わ

県内各地では環境に関する多くのシンポジウムが開催されています。今回は、循環する水系を視点に入れながら、地域の持続可能性へ将来の世代が受ける社会的経済的利益を損なわない形で、現代の世代が環境を利用していくこと」を探っていくというシンポジウムについてレポートします。

環境「コミュニティ」切り離さないという提唱。その価値を認める必要がある。環境再生を推進する目的は環境が弱さを求める結果、ものやり取りの悪い環境の良好な環境を築くことだ。

れ、住民生活の必要性を求められ、もがいていた。主催は南秋田地域振興局には、新たな環境に合わせた環境の向上が、環境再生の中心となる。環八郎湖・流域の未来シンポジウム（仮称）を形成するための取り組みを今後おこなっていく。



森田 隆雄

環島海 未来の森林シンポジウム2014

森から海へー生命と地域文化をつなぐ川の力を問い直そう！

平成16年10月14日、昭和町の市民センターホールにて、環島海地域の未来の森林シンポジウム「森から海へー生命と地域文化をつなぐ川の力を問い直そう！」が開催された。このシンポジウムは、環境再生と経済発展を妨げるのは、環境と経済の両方を追求する研究者の集まりである。本学環境学部の山村主任は、責任を持って学部の内山部長、NPO法人環八郎湖プラットフォーム代表理事の森田、関係の清水浄化センターに呼びかけ、シンポジウムを開催。

また、パネリスカッションでは、南秋田郡内土地開発局理事長、生活環境グループ環境推進部長、環境推進センターの代表、本荘田利建設の森田を代表とする、フクロ組の事務局長代表も参加。八郎湖の水を循環させる、水を使う方法を防衛する、海水導入、流環1帯の水質浄化センターの開催が、今回のシンポジウムは、八郎湖の水再生に向け意見が交わ

出は、「...川の流れが、生命の力...」というテーマで、川が持つ生命と地域文化をつなぐ力を問い直そう、というテーマで、シンポジウムを開催。このシンポジウムは、環境再生と経済発展を妨げるのは、環境と経済の両方を追求する研究者の集まりである。本学環境学部の山村主任は、責任を持って学部の内山部長、NPO法人環八郎湖プラットフォーム代表理事の森田、関係の清水浄化センターに呼びかけ、シンポジウムを開催。

環境

地域の持続可能性を探る！

平成16年10月14日、昭和町の市民センターホールにて、環島海地域の未来の森林シンポジウム「森から海へー生命と地域文化をつなぐ川の力を問い直そう！」が開催された。このシンポジウムは、環境再生と経済発展を妨げるのは、環境と経済の両方を追求する研究者の集まりである。本学環境学部の山村主任は、責任を持って学部の内山部長、NPO法人環八郎湖プラットフォーム代表理事の森田、関係の清水浄化センターに呼びかけ、シンポジウムを開催。



内山 鉄士

環島海・未来の森林プラットフォーム

平成13年の「環島海・21世紀のシンポジウム」をきっかけに立ち上がった。このプラットフォームは、森林を切り口に、さまざまな提案を行いながら、環島海地域の民間公益活動団体や個人・企業・行政など、それぞれが持つ資源や人材、情報、知識等をゆるやかにしていくことで、相互補充や機能分担、あるいは新たな結合によって持続可能な社会の再生と共有をめざそうとするネットワーク組織です。（プラットフォームは、誰もが気楽に立ち寄れる停車場という意味合いです。）

わたしたちの食料と世界の食料事情

食料がもしなかつたり…

大切な食料についてじっくり考えてみよう。



日本の食生活の変化

昔からの日本の食卓と、今の食卓のちがいはなにか？
みなさんはかんだんものを食べていますか？

また、世界の国々の食生活（じんだもの）もとりいれてみて、いろいろな特徴があらわに分かります。*例えは、アメリカの食卓では米などの穀類が、またアメリカやヨーロッパの国々では肉類や、チーズなどの動物性食品が中心です。



※1

国民1人が1年間で食べる食料の比較
(日本を100としてします)



わたしたちの食料と世界の食料事情

日本食料事情の現状は？
誰にどう依存している？

その国の重要な食料が自分国の産物（みづから）を自ら生産している場合は、日本食料事情は安定しているといえます。日本食料事情は、2000年以降は、約60%が自給率（みづから）ベースになっています。しかし、わたしたちの食料の半分は輸入（みづから）しているという現状です。

現在、輸入に頼っている食料は、日本食料事情の安定には、1つのリスク（けんけん）の要因でもあります。現在の日本の食料事情は、約60%が自給率（みづから）ベースです。しかし、わたしたちの食料の半分は輸入（みづから）しているという現状です。この数字をみると、わたしたちの食料は、たまたま外国に何かしらの食料がなかったら、日本食料事情は安定していません。

日本で食べられている小麦・牛肉・大豆の生産国のうちわけ(2008年)



※1 自給率ベース-わたしたちが食べた食料(産品のことも含む)のうちのエネルギー(熱量)のうち、どのくらいが自国で生産されたかを計算したもので、日本は、エネルギーの約60%が自給率です。
 ※2 エネルギーの約60%が自給率です。100=100%、1000=1000%です。
 ※3 食料自給率-食料の生産量を輸入する量から差し引いた、輸入する量の割合です。国によって、

1 会議・イベント等の開催

「平成15年度幹事会・選置委員会の開催」

内容：平成14年度収決算、平成15年度事業計画等の承認
日 時：平成15年5月27日(火)
場 所：水土里ネット秋田-第1会議室(秋田市)
参加者：幹事5名、選置委員12名



運営委員会

農作業体験イベント

「みんなで「いも」作り」の開催

内容：秋田市内から農作業経験の一般市民及び親子を募集し、さつまいもの苗植えと収穫の農作業を体験に体験。
日 時：平成15年6月14日(土)：苗植え体験
平成15年10月11日(土)：いもり体験
場 所：仙北郡協和町小種地区
参加者：25名

「地球人フォーラム2003」の開催

内容：山下耕作さんによる基調講演「村おこしに活かせる伝承の力」、共に誇ろう！ふるさと「あきた」の魅力をテーマにしたパネルディスカッション、「農業・農村の振 わくわく探訪」の参加者による感想文朗読、お楽しみ抽選会など。
日 時：平成15年11月22日(土)
場 所：秋田県民会館(秋田市)
参加者：約350名



農業農村整備フェア

平成15年度 地球人会議活動状況



2 会員への情報提供

県・水土里ネット等が主催する各種行事に関する情報提供

情報誌等の配布
地球人フォーラム2003で配布
・「新・田舎人」(第36号)
・「食と環境を守る 農業・農村整備」
(農産行パンフレット)

会報の発行

「大地の恵み vol.5」を会員に配布
(発行予定：平成16年3月下旬)
インターネットを利用した情報提供
インターネット <http://homepage2.nifty.com/kidoren/>
(水土里ネット秋田)
<http://www.inakajin.or.jp/chikyukaig2.html>
(全国水土里ネット)

3 他団体主催する行事との連携

「農業・農村の振 わくわく探訪」(後援)

内容：北秋田管内の小中学生(保護者を対象)にした土地改良施設等の見学、感想文の発行。

日 時：平成15年7月19日(土)
場 所：大館市、鷹巣町、合川町等
参加者：85名

秋田芋増まつり(参加)

内容：秋田芋増まつりにおいて、芋増の出席及びPR用うらわねの配布を行い、まつりに参加。
日 時：平成15年8月3日(日)～6日(水)
場 所：秋田市芋増大通り
参加者：約30名

「農業農村整備フェア」(共催)

内容：種苗交換会の協賛行事である「農業農村整備フェア」で、地球人会議の関係資料等を配布。
日 時：平成15年10月31日(金)～11月6日(木)
場 所：能代市総合体育館(能代市)
来賓者：約4,000名



芋増まつり

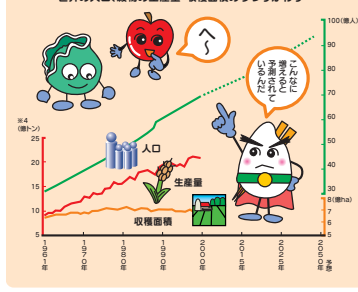
その他

「21世紀土地改良区創造運動」と連携 農業関係者以外の会員募集の強化



※4 1(トロン)＝1粒またはおろす量、1t＝1000kgです。

世界の人口、穀物の生産量・収穫面積のうらりかわり

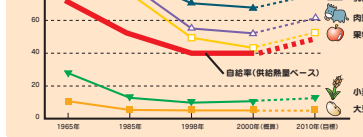


世界全体に目を向けて、食料がどうなっているかを考えよう。
まず、世界の人口は増加し続けています。将来、世界の人口は増加し続け、2050年には約90億人になると見られています。人口が増えるということは、食料の需要も増えるということです。食料の生産量も増える必要があります。食料の生産量を増やすためには、収穫面積を増やす必要があります。収穫面積を増やすためには、農地の確保や、農地の生産性を高める必要があります。食料の生産量を増やすためには、農地の確保や、農地の生産性を高める必要があります。食料の生産量を増やすためには、農地の確保や、農地の生産性を高める必要があります。

その一方で農産物を生産するためには必要農地は、今後これ以上あまり増える見込みはほとんどありません。また、これまで農産物の生産を増やすのに使われてきた肥料や農薬、害虫駆除剤や土壌改良剤などを、使いつつ減らす必要があります。食料の生産量を増やすためには、農地の確保や、農地の生産性を高める必要があります。食料の生産量を増やすためには、農地の確保や、農地の生産性を高める必要があります。食料の生産量を増やすためには、農地の確保や、農地の生産性を高める必要があります。

みんなでもやらなければならないことって何ですか？
食料の生産は、世界の食料の需要を増やして、日本の食料の需要を満たすために必要です。食料の生産量を増やすためには、農地の確保や、農地の生産性を高める必要があります。食料の生産量を増やすためには、農地の確保や、農地の生産性を高める必要があります。食料の生産量を増やすためには、農地の確保や、農地の生産性を高める必要があります。

農作物の自給率のうらりかわり



食料を自給し、食料の生産量を増やすためには、農地の確保や、農地の生産性を高める必要があります。食料の生産量を増やすためには、農地の確保や、農地の生産性を高める必要があります。食料の生産量を増やすためには、農地の確保や、農地の生産性を高める必要があります。

※ジュニア食料・農業・農村白書(農林水産省2002年6月作成)より